

## 孔子の教育思想とその実践 (二)

### The Educational Thoughts and Realization of Congzi (2)

王 智 新

孔子(紀元前 551—479 BC)は中国春秋戦国時代の思想家、教育家であり、儒家の創始者でもある。中国文化の傑出した代表者として、孔子ほど広く知られている者はないと同時に、彼ほど誤解されている者もない。

グローバル化・情報化・IT社会と言われる一方、「テロ」・公害・経済不況・学力低下などという面も大きくクローズアップされ、ますます混沌とした世相が深まっている今日のような時代に、孔子の思想と実践は果たして意味を持ちうるかどうか。もし、持ちうるであれば、どんな意味合いにおいてなのか、本文は今日までの中国と日本学者の研究成果を踏まえ、できるだけ詳細な資料を使用して、孔子の本来の姿を再現し、今日における孔子の思想とその実践の意味をもう一度問い直そうとする。

キーワード 孔子、儒教、儒学、儒家、弟子、有教無類、

#### 目 次

はじめに

#### I 孔子の時代と生涯

- 1 孔子誕生の時代背景、孔子の誕生 井田制度崩壊、学校弛緩、王官失政、塾教育新興、士の活躍
- 2 孔子の家系
- 3 孔子の生涯 謎めいた誕生、貧困の幼少期、好学の青年期、不惑の壮年期、魯の国の宰相、列国周遊、述べて「六経」作り、辞世

#### II 孔子の生活環境とその影響

- 1 三孔一孔廟・孔府・孔林、闕里、杏壇、孔壁(魯壁)、孔宅故井、孔子墓、
- 2 古泮池、舞雩台、梁公林(孔子父母墓) 尼山、夫子(坤靈)洞(孔子生誕地)、孔子御手植樹、
- 3 春秋書院、孔子觀川処、孔子像、孔子夫婦木像、孔子行教像、
- 4 大成至聖文宣王像、聖跡図

(以上は前号)

### Ⅲ 孔子の教育実践とその弟子

- 1 士について、士の原型 士の特徴
- 2 弟子について、弟子の人数、
- 3 弟子の素顔、①子淵（顔回）、②子路（仲由）、③子貢（端木賜）、④子夏（卜商）、④子張（顓孫師）、⑤子我（宰予）、⑥子游（言偃）、⑦子有（冉求）、⑧冉伯牛（耕伯牛） ⑨閔損（閔子騫）、⑩仲弓（冉雍）、⑪子張（顓孫師）、⑫子遲（樊須）、⑬子思（原憲）、⑭子華（公西華）、⑮子牛（司馬牛）、⑯子輿（曾參）、⑰子有（有若）

### Ⅲ 孔子の教育実践とその弟子

#### 1 士について

##### 士の原型

孔子は中国史上はじめて私学を開校し大規模な学校を設置して、弟子を募集して学問を講じた。「孔子は長年教鞭を執り、中国史上で始めて学術を大衆化した者で、教育を職業とする“教授の老儒”である。戦国時代において遊説、講義のスタイルを作り、農業、工業、商業、また官僚、（農工商官）以外の「士」という階層を創設した者である。」①

「士」、と言えば、「士農工商」といわれるほど、日本でもかなりよく知られ、今日の言う知識人であるが、もっと文化知識や知恵才能等を生活の手段とする知識人、しかも政治的影響力を持つ者、のことを指すのであるが。孔子以前にも宮廷の占い、記録係など文化知識を生活の手段とする者がいた。しかし、孔子の時代を境に、士は中国では知識人の専用名詞となった。春秋戦国時代になってから、士の数が急速に増え、社会的新階層となつて一躍して衆目を集めた。

夏、殷の時代の占い師は中国知識人の始まりであるが、まだ人数が少なく、階層にはならなかった。周朝になると、卿大夫や諸侯の家臣として勤める専属の知識人が現れた。その人達は、平時、諸侯や卿大夫を補佐し、ブレーンのような役割を果たすが、戦争の時は下級士官として従軍し、文武両道、多彩多様だった。しかし、まだ、主人との主従の関係が強く、社会的地位も低かったため、社会的にはあまり活躍できなかった。春秋戦国時代に入ると、社会が激しく変動し、士の主人への依存、所属関係は日増しに崩れてきた。そして、いろんな国は興っては滅び、一時二百国まで分裂したが、後に12カ国、さらに、激しい対立、抗争の末、互いに張り合い、国力の匹敵する秦、趙、燕、齊、魏、韓、楚の7カ国となった。各国の王や諸侯は、少しでも自国の国力を増強し、他の国々より政治、経済、外交、軍事などの面で優位を付け、覇を争う為にもっと働いてくれる、活躍できる人材を必要となった。各国の王や、諸侯は国籍や出身を問わずに、全国から広く有能の士を募集し、自分の門下を集めて、手厚く優遇した。人材募集で有名なのは齊の国で、一時数千人の学者がそこに集まったという。このようにして、知識人は独立し、だん

だんと頭角を表してきた。さらに、春秋戦国時代、農業生産が発達し、社会経済が繁栄し、人口も著しく増加し、頭脳を使う人が肉体労働をしなくても生活苦に悩まされずに、文化活動に専念できるようになった。社会文化遺産の増大、教育が平民の中で普及したので、士の質が向上し、その数も急増した。社会が激変する中で、斜陽貴族の子弟は祖先の庇護で生活できなくなったので、自己の身に付けた知識を道具に、自分の政治目的の達成を目指して各国を遊説した。また平民、解放された奴隷の中の優秀者は社会の変動に乗じて、士のように知識を身につけ、社会地位の上昇を図った。このような人には使命感に燃え、多くの名人が生まれた。

士の階層が形成されたということで、中国の文化も大きく様変わりした。中国の伝統文化、思想は殆どそこから源を発している。士は中国文化の為、大きな貢献をし、いまでも尊敬され、語り継がれている。1970年代の「孔子批判」運動に見られるように、その当時創設された社会秩序は、今日の世界生活の基盤としてなおも活き続けている。その時に有名な思想家、軍事家、政治家が輩出していた。孔子、孟子、老子、荘子、墨子、荀子、韓非、左丘明、屈原、宋玉、管仲、商鞅、李悝、孫武、孫臏、蘇秦等がその代表で、中国古代の思想、政治、軍事、外交等の面で、それぞれ二千年後の今日まで決定であり続ける功績を残した。

### 士の特徴

1、強い社会責任感と雄大な抱負を持っている。彼らは非常に強い参加意識を持っていた。政治を通して自分の理想の実現に燃えた。士の中にもともと政治中枢に近い者、例えば管仲、商鞅、蘇秦などは、宰相の地位いた者で一連の改革案を打ち出し、実施したが、そうでない者も政治改革に深く関心を以て参加した。例えば、孔子も弟子を連れて一度ならず各国を歴訪し、賢明な君主を捜し求め、自己の理想を実現しようとした。天下国家を己の責任と自任し、自分の理想的な政治を通じて実現していく意識が非常に強い。しかし、それは決してポストばかりを狙うのではなく、士は「道を謀りて食を謀らず」、自分の理念と合わない政権には潔く引退し与しない。「道不同、不相為謀。」（『論語 衛霊公』道同じからざれば、相い為めに謀らず。）

2、独立した人格 士は独立した人格の持ち主で、和して同せず、付和雷同を嫌う。人間の世界は時には対立したり矛盾したりするさまざまな事物によって構成されている。そのような多様な個性に埋没せず自分のパーソナリティを堅持しながら、うまく協働していくのが和である。異なったものを集めてバランスよく整理することは和で、ハーモニであり、協調性でもある。「君子和而不同、小人同而不和」（『論語 子路』君子は和して同せず、小人は同して和せず。）そして、高い志をもち、「三軍可奪帥也、匹夫不可奪志也。」（『論語 子罕』三軍も帥を奪うべきなり、匹夫も志を奪うべからざるなり。）

3、理想への追求 士は個人の信用、名誉と尊厳を殊の他に大事にする。「士は己を知る者の為に死す」、「烈士は名に殉す」等の名言のようである。例えば、孔子の弟子の顔回は貧しくても学問への道を極め付けたとして、孔子から高く評価された。燕の太子の丹の門人となった荊軻は燕

の国を保全する為、身を捨てて秦の始皇帝に暗殺に赴いた。「風蕭蕭兮易水寒、壯士一去不復還」（風は蕭蕭として易水寒し、壯士ひとたび去ってまたかえらず）という歌を遺し、その壮絶の美は今日まで尊敬されている。「其人雖已没、千載有余情」（陶淵明・詠荊軻）（その人すでに没すと雖も、千載余情あり）屈原の汨羅江への投身自殺し、「行己有恥、使於四方不辱君命。」（己れを行なうに恥あり、四方に使いして、君命を辱しめざる、士と言うべし。）「宗族称孝焉、郷党称弟焉」（宗族孝を称し、郷党弟と称す。）そして、信用がある。「言必信、行必果。」（『論語 子路』言必信、行必ず果。）「貧は士の宣しきなり」。そして自分を厳しく要求する「吾日三省吾身」（『論語 学而』吾、日に三たびわが身を省みる）、そして、「士は窮しても義を失わず、達しても道を離れず」のである。

4、和を尊して中庸を持する 「礼之用、和為貴。」（『論語 学而』礼の用は和を貴しと為す。）そして、「中庸之為徳也、其至矣乎、民鮮久」（『論語 雍也』中庸の徳たるや、其れ至れるかな。民鮮なきこと久し。）孔子は中庸を最高の道徳と認め、民がそれを欠いて久しい。孔子の解釈によれば、「允執其中」（つまり、何事にも両端があり、どっちにも偏らず、その中を執る）、「過之猶不及」（『論語 先進』）（過ぎたるは猶お及ばざるがごとし。）何事にも基準があり、それを超えたり、あるいはそれに届かなかつたりすることは、いずれもよくない。

## 2 弟子について

孔子は私学を設立して五十数年間教育に従事した。しかし、孔子が自ら言った「十有五にして学に志した」から計算すると、実に六十年近く数えることができる。では、教師として、弟子を入門させて教授を始めたのは、一体、何時からだろうか。司馬遷の『史記』では、「ときに孔子は十七歳であった。魯の大夫孟厘子が病気でまさに死のうとするとき、その嗣子である懿子を誡めて言った。“孔丘は聖人の後裔である。……聖人の後裔には、位にはついていなくても、かならず事理に達した賢人があると聞いている。今、孔丘は年少ではなるが礼を好んでいる。おそらく事理に達した賢人であろう。わしがもし死んだらならば、おまえらはかならず彼を師としなさい。”厘子が死ぬと、懿子は弟子の南宮敬叔とともに、孔子のもとに行って礼を学んだ。」（『史記 孔子世家』）

孔子が若い時から礼儀正しくて有名になったこと、と孟懿子と南宮敬叔がかつて孔子について礼を学んだことが記されている。しかし、果たして、孔子が十七歳のとこのことなのかどうか、甚だ疑問である。「十有五にして学に志した」なのに、その二年後に、すでに弟子を教える。それはあまりにも不自然である。『左伝』の記述では、孟厘子が病に倒れて死ぬまでの間には、数年間あり、懿子が孔子の弟子入りしたのは、孔子が三十四歳の時の事である。

誰が一番早く孔子の門下生になったのかについては、もう調べようが無い。ただし、孔子の早い時期の弟子である子路は、孔子より九歳年下である。しかし、孔子に弟子入りしたときは、すでに成人し堂堂とした武士であり、二十歳を過ぎているから、孔子はすでに而立の年（三十）を

過ぎている。さらに、「己欲立而立人、己欲達而達人」(『論語 雍也』 己れ立たんと欲して人を立て、己れを達せんと欲して人を達す。)と孔子が語ったので、教育を始めたのは三十歳、つまり「而立」を過ぎてからのことだろう。孔子が三十五歳の年、魯の国に内乱が起きたので、孔子は魯の国を離れて、斉の国へ行き、高昭子の家臣になったということから見れば、その年まで、まだ教育を主としていなかった。上記の孔子のお気に入りの十哲は、孔子より三十歳年下の人もいる。十代で孔子に弟子入りしたにしても、すでに師は四十を越えていた。孔子が従事した教育は、いわゆる啓蒙的なものではなく、治国策や人間学である。従って、弟子を募集する場合、家庭の経済状況を問わないが、入学の年齢はそう若くないと推測される。

### 弟子の人数

志願者であれば、少額の授業料(束脩=干し肉)さえ納めてくれれば、誰でも入門できる。「教えありて類なし」、向学心さえあれば、出身、門弟、民族などすべて不問すると、孔子は自分の募集についてこう決めていた。全国各地から孔子を慕って、弟子が集まってくる。一時孔子の門下に集まった学生の総数は三千人を超えたとされている。『史記・孔子世家』によると、「孔子は詩、書、礼、楽を以て教え、弟子は蓋し三千人ある。六芸を身に付けていたのは七十二人である」とされている。後世では六芸を習得したこの人たちのところを「七十子」と呼ぶ。『史記・仲尼弟子列伝』には「七十子」の氏名を逐一収録されている。それは史書に孔子の弟子の人数の表記の嚆矢となる。

しかし、『史記』以外の史書にも類似した記録がある。例えば、「孔子は弟子七十人、生徒三千人を修養したが、皆、孝行に入り悌に出づる。その言が文書になり、行いは儀表となる。(孔子の)教えの成果なり。」(『淮南子』上海書店 1986年 357頁)「孔子は爵位を持たなく、布衣を以て有能の士七十余人を教え、それぞれ侯卿相になるように育てた。」②さらに、「仲丘の門弟で昇堂した者は七十有二あり。」などの説もある。

孔子の弟子たちの出身であるが、『史記』によると、魯の国だけでなく、斉、燕、秦、魏、呉、衛、陳、宋、蔡等、当時のすべての国から来ている。勿論、中でも地元の魯が一番多いが、遠くの呉国からは一人しかなかった。弟子たち入門の時期はまちまちで、年齢の差が非常に大きいし、教養のレベルも不揃いであった。秦商と顔路(顔回の父)は年が一番上で、孔子より四・五歳しか若くない。公孫龍は一番年が下で、孔子より五十三歳も若い。弟子たちは貧しい家庭に生まれたものが多く、貴族家庭に生まれたのは南宮敬叔等三人しかない。

「孔子の弟子で孔子から学問を習い、六芸に精通した者は、七十七人、いずれも人並みはずれた能力の持ち主である。」(『史記 仲尼弟子列伝』) 賢人といわれるこの七十数名の弟子は、恐らく正式に孔子の門下に入り、一定期間、孔子の下で学問の手ほどきを受けたことになるであろう。その他の人たちは必ずしも正式に「束脩の礼」を通過して、入門したとは限らない。しかし、いずれにしても、あまり年代が隔たりすぎて、司馬遷の時代ですら、三千人の名簿や手がかりは

杳として分からなかったらしい。司馬遷の懸命の努力にもかかわらず、「三十五人は、顕かに年名あり。また業を受けしこと書伝に聞見す。其の四十有二人は年なく、また書伝に見えざる。」(『史記 仲丘弟子列伝』) 従って、詳細は不明なので、氏名だけ列挙された。

七十七名についての考証は、司馬遷が独自の基準を設けて進められた。「学者多くは七十子の徒と称す。誉むる者は或いは其の実に過ぎ、毀る者は或いは其の真を損す。之を均しく、未だその容貌を觀ずして、即ち論言す。弟子の籍は孔氏の古文に出づ。是なるに近し。余、弟子の姓名文字を以て、悉く論語の弟子問より取り、併せ次いで篇を為す。疑わしき者は焉を闕く。」(『史記 仲丘弟子列伝』) つまり、弟子の氏名は『論語』から取り出して、順序を立てて列伝を表し、不明或いは疑わしい者はすべて省略したのである。

司馬遷の主な根拠は『論語』であることは、本人の主張したとおりでである。しかし、現在刊行している『論語』とつきあわせてみれば、なお、疑問と思わざるを得ない箇所がある。例えば、「子の曰わく、吾れ未だ剛者を見ず。或いはひと対えて曰わく、申枏と。子の曰わく、枏や慾なり。焉んぞ剛なることを得ん。」(『論語 公冶長』) また、「牢が曰わく、子云まう、吾れ試いられず、故に芸ありと。」(『論語 子罕』) 『論語』注釈の権威で『四書章句集注』によれば、「牢」とは、孔子の弟子で、姓は琴、字は子開で、氏名は定かでない。名前は『論語』に一回しか出ていないので、果たして孔子の弟子であるかどうか、判断の材料はあまりも少ない。申枏の場合も同じ、『論語』に一回きりの登場で、孔子の弟子として認知しているのか、という一抹の不安は拭いきれない。さらに、『論語 先進』の「柴也愚、參也魯、師也辟、由也喭」の件を読むと、その疑問がまたまた頭を擡げる。このような評価は、申枏のとまったく一緒である。しかし、褒めるのか、貶すのかまったく異なった二通りの解釈にとれ、ニュアンスも違うので、孔子のものであるとにわかに判断しかねる。司馬遷の『史記 仲丘弟子列伝』には、さらに、「申党、字は周」という記述があり、歴代の考証では、「申枏と同一人物である」という説がある。しかし、申党と申枏とは、いったいどんな関係があるのか、それも明らかではない。

また、子禽という問題も長い間論争されて、なかなか決着のつかない「公案」である。『論語』には、「子禽」という名前は二箇所に出ている。まず、『論語 学而』に、「子禽、子貢に問うて曰わく」の子禽、と、『論語 子張第十九』の「陳子禽、子貢に謂いて曰わく」の件に見られる「子禽」の関係である。さらに、『論語 季氏』には「陳亢、伯魚に問うて曰わく」という文があるが、多くの論語の研究者は、陳亢が子禽と同一人物であると考証している。勿論、それにはそれなりの理由と根拠がある。しかし、司馬遷はその説に与しない。『論語』の記述によれば、子貢は子禽とかなり親しい間柄である。弟子が互いに質問したり答えたりする場面は、『論語』のほかのところにもある。しかし、「陳亢、伯魚に問うて曰わく」の内容や言葉遣いから見れば、弟子の間柄ではないということがわかる。したがって、陳亢と陳禽とを同一人物として扱うのは無理がある。また、伯魚は孔子の子息で、『論語』に二度登場し、孔子と問答をしているので、弟子として認めても良からうと思う。

上記の申根、牢、子禽と伯魚の四人は、生年不祥の者もあるが、事跡や言論も記録されているにもかかわらず、司馬遷の七十七子の『史記・仲尼弟子列伝』に取り上げられていない。もし、司馬遷がその四人を弟子として認め、『史記・仲尼弟子列伝』に加えれば、孔子の弟子の人数は今日の数ではなかろう。七十を超えているはずであろう。それは、長い歴史の中で『論語』自身の文字や記述が微妙に変動しているせい、それとも、司馬遷が『史記』を執筆する際に、今日に伝わっていない別の根拠があったのか、いずれも推測の域を出ない。

また、『晏子春秋』には、このような記載がある。

「景公が道中、泣き声を耳にした。曰く、吾、鳴き声を聞いた。誰がしたの？梁丘公対いて曰く。魯の孔丘の徒で、鞠語である。礼楽に明るくて、服葬に審らかである。その母亡くなり。甚厚に葬る。三年喪に服し、号泣甚疾である。」(『晏子春秋集釈』巻第八 中華書局 1962年 497頁)

しかし、この鞠語は七十七子に入っていない。勿論、賢人として認められない説もある。しかし、それならば、少なくとも「三千人」には入れるであろう。「礼楽に明るくて、服葬に審らかである」という評判なら、孔子の教えもかなり受け、深く心得ていたのであろう。

数千年の間に無数の考証を経て、孔子の業を受けた数多くの弟子の中から、認められ、伝えられたのは、上記の七十七人しかない。なお、生年や事跡など割りと詳しく記録されている者は、その半数も満たさない。それは、エリート中のエリートという人たちで、中国の哲学を大きく発展させ、儒学の伝統を全う上で、大きく貢献したのである。

孔子の弟子には、徳行の優れた人(顔回、閔損、冉耕、冉雍)、言語が上手く外交に長ける者(宰予、端木賜)、政事に精通し政治家として抜群の腕力のある者(仲由、冉求)、教典文献を精通し熟知している者(言偃、卜商)等で、多様な人材が集まった。孔子死後、弟子たちは各国に散り、諸侯に仕える者もいれば、学校を開き、弟子に学問を伝授する者もいた。沢や草山に隠れて隠居して、孔子の理論を身を以て実践する者もいた。孔子の思想の伝播、儒学の形成に重大な貢献を為し、文献、教典の整理を通じて、中華文化の発展に不滅な功績を遺した。さらに、間もなく到来する中国古代ルネッサンスと言われる春秋戦国時代の「百家争鳴」の為に、地均しをした。

「孔氏述文、弟子興業、咸為師傅、崇仁励義」(『史記 太史公自序』孔子は文をのべ、弟子は学業にはげみ、みな諸侯の師傅になり、仁を崇尊び義を奨励した。)

師と弟子たちの共通の努力で、儒学が大きな流れとなり発展していった。孔子と弟子との関係を振り返って、孟子は次のように話した。

「実際は力で威圧しておりながら、うわべだけに仁者の仮面をかぶって諸侯に君臨するのが覇者である。それゆえ覇者となるためには、ぜひとも大国でなければならない。その人の徳からして、おのずと仁政を行なって諸侯に君臨するのが王者である。それゆえ王者となるには、なにも大国をもつ必要はない。殷の湯王は七十里(約二八キロ)四方の小国から、また周の文王は百里

(約四〇キロ) 四方の小国から天下の王者となった。力によって強いられた服従は、心からの服従ではない。自分の力が足りないので、仕方なく服従しているに過ぎない。ところが、徳に感じてなつくのは心の底から喜んで服従するのである。たとえば七十人の弟子が孔子に心服したのなどがそれである。『詩経』(大雅 文王有声篇)の西より東より来たり、南より北より集まりて、思いて服せざる者なかりき。という詩句は、王者に心服するさまを歌ったものである。』(『孟子 公孫丑章句上』)

### 3 弟子の素顔

#### ① 子淵—顔回 (紀元前 521—前 481 年)

姓は顔、名は回、魯の国の人、孔門十哲の一人で、孔子諸弟子の中で最も気に入った一人である。父顔子路も孔子の初期の弟子である。貧乏な家庭に生まれ、貧しい巷に住み、一碗の飯とひさごの椀一碗の汁だけの暮らしをしながら、学問の初心を忘れず、生涯出仕せずに、終身孔子に従い、師と一日中語らい会っても反対も異説も唱えず、まったく順従そのもので、まるで愚か者のようで、さすがの孔子も心配し、引き下がってから、そのくつろいださまを観察してみると、十分師の道を発揮していたので、「回也不愚」(為政)と孔子は胸を撫で下ろした。一を聞いて十を知る秀才で、「好学不倦」、「有顔回者、好学、不遷怒、不忒過。」(論語 雍也)顔回なる者あり、学を好む。怒りを遷さず、過ちを忒たびせず。)その心は三月仁を違わず、「吾見其進、未見其の止也。」(『論語 子罕』吾れ其の進むを見るも、未だ其の止むを見ざるなり。)と孔子に誉められる。孔子のことを心から敬服し、「仰之弥高、鑽之弥堅」(『論語 子罕』これを仰げば仰ぐほど、いよいよ高く、きりこめばきりこむほど、いよいよ堅い)と感歎していった。孔子より三十歳若い、孔子より早く亡くなった。孔子はその死を悼み、「噫!天喪予!天喪予!」(『論語 先進』ああ、天はわしをほろぼした。天はわしをほろぼした。)と慟哭した。そして、「顔淵死、門人欲厚葬之、子曰、不

可。」(同前、顔淵が死んだ。門人たちは立派に葬式をしたいと思った。孔子は“いけない”と言われた。)葬式は身分に応じて行なわれるのが礼であるので、孔子は身分に相応しくない葬式を許可しなかったのである。孔子死んだ後、儒学は八派に分かれたが、その内、顔氏之儒は顔淵のことである。聖人の中に顔という苗字を持つ人は数人いるが、顔淵ほど学問を身に付けた者はない。『論語』に記述された孔子との対話も多い。漢の時代にすでに、七十七賢人の第一位と推賞され、唐代の太宗から「先師」と尊ばれ、明代には「復聖顔子」と称された。曲阜には顔回を祀る「復聖廟」がある。

#### ② 子路—季路 (紀元前 542—前 480 年)

姓は仲、名は由、孔門十哲の一人で、魯の国卞下の人、貧しい家庭に生まれた豪傑肌の人で、



性格は野鄙で正直で、正道を守って曲げない。若い時は任侠を好んで、孔子に乱暴を働こうとしたこともあったが、孔子から礼儀によって少しずつ導かれ、感化され孔子に弟子入りした。孔子を尊重し、ボティガート代わりに孔子を守った。「自吾得由、悪言不聞於耳。」(『史記・仲尼弟子列傳』吾、由を得てより、悪言耳に聞かず。)しかし、孔子にも率直に意見を申し立てていた。孔子が南子に謁見することに非常な不快感を表した。学問的には入門程度しか分からないが、政治的には大臣の器であると孔子は子路を高く評価していた。「道不行、乗桴浮於海。從我者、其由與。」

(『論語・公治長』道が行なわれない、いっそ、筏に乗って海に浮かぼう。わたしについてくるものは、まあ、由かな。)と孔子も彼の忠誠ぶりを高く買っている。政治手腕が高く買われ、衛の国の地方長官となり、治世の実績を上げたが、内乱に巻き込まれ、二人の敵を相手にして闘っていて、冠の紐を切られてしまった。「君子死んでも冠を脱がない」と、子路は冠の紐を結び直している内に切られて死んだ。『論語』の中では、子路について言及している箇所は三十八ヶ所もあり、後世への影響がとて大きい。唐代には「衛侯」の号を贈られ、宋代には「河内公」と封じられた。

### ③ 子貢一端木賜 (紀元前 520—前 456 年)

復姓端木、名は賜、孔門十哲の一人で、衛の国の人、聡明で外交手腕の巧みな雄弁家である。頭の回転が速くて理解力も抜群で、弟子入り以前から商いで有名であったから、孔子については他の弟子と違った認識過程がある。孔子の弟子になった年には孔子より自分の方が上だと自惚れていたが、翌年は孔子と同じだと自認し、三年目は「孔子にはとても及ばない」と、すっかり孔子を敬服したという伝説がある。孔子のことを「丘尼は日月なり、得て踰ゆること無し。…夫子の及ぶべからざるや、猶お天の階して昇るべからざるがごときなり。(『論語 子張』)」と言い、孔門弟子の中で、一番よく孔子を賛美した人である。孔子には聡明さをほめられたが、多弁をたしなめられた。政治に強い関心を持ち、孔子にはよく経国政略についての質問をし、『論語』の中で、孔子との問答が一番多かった。商売も上手くして「命を受けずして貨殖す。億れば即ち度々中る。」(『論語 先進』)と孔子にも認められ、「器也、瑚璉也。」(『論語 公治長』器で、宗廟のお供えを盛る貴重な瑚璉である)と誉められた。つまり、中央政権の中樞を背負い働く才能があるということである。孔子の死後、魯の哀公が弔問に見えたとき、「生前は用いられず、死後に誄しては礼に非ず」と非難した。三年の喪が明けると他の弟子たちは故郷に帰ったが、子貢は孔子の塚の傍らに家を建てて、さらに三年喪に服した。晩年は齊の国に移住し、そこで莫大な財産を作った。唐代には「黎侯」、宋代には「黎陽公」と封じられた。

### ④ 子夏一ト商 (紀元前 507～?)

姓はト、名は商、孔門十哲の一人である。春秋末期晋国の温 (河南温県) の人で (魏、或いは衛国の人という説もある)、謹厳な人柄で、時には度を過ぎて消極的になる。孔子より 44 歳下で、

貧しい家庭に生まれ、勤勉に修学して、優れた文才の持ち主である。「博学而篤志、切問而近思。〔『論語 子張』博く学びて篤く志し、切に問いて近く思う〕という内省を重視すると同時に、実践をもする学問観を主張する。「仕而優則学、学而優則仕」（同前、仕えて優なれば即ち学ぶ、学んで優なれば即ち仕う。）という中国知識人を魅せられる不変の真理を師の孔子に代わって宣言する。独自の見解は孔子に褒められるが、周礼の遵守を時々軽視するので、孔子から「起予者商也」（『論語 八佾』われを起こす者は商なり）と評される。孔子の死後、魏国へ学問を伝授し、大きな影響力を持つに至った。晩年、我が子が死んだ時、声を挙げて号泣し、遂に失明した。儒学教典の主要な伝授者である。唐代には「魏侯」の号を贈られ、宋代には「河東公」と封じられた。

#### ⑤ 子我一宰予（紀元前522～?）

姓は宰、名は予で、孔門十哲の一人である。魯の国の人で、弁舌爽やかで、言葉巧みで有名である。孔子を伴って列国周遊中、孔子の特使として齊国へ行行って交渉を重ねた。孔門弟子の中で、孔子の「仁」について疑問を呈した唯一の弟子である。親が死んで三年間、一切の公務を退いて平常と違った衣食住で生活して喪に服するという「三年の喪」制が長すぎて、「君子三年不為礼、礼必壞；三年不為樂、樂必崩」（『論語 陽貨』君子が三年も礼を修めなければ、礼はきつとすたれてしまう。三年も樂を修めなければ、樂はきつとだめになる）といて反対し、「一年の喪」制を提案したことで、孔子から「不仁なること」と批判された。しかし、何かの理由で日中に昼寝をしたことで、孔子から「朽木は彫るべからず、糞土の墻は朽るべからず」（『論語 公冶長』）と嘆かれた。彼の言論と行動の乖離から、孔子は「始吾於人也、聽其言而信其行、今吾於人也、聽其言而觀其行、於予與改是」（同前、前にはわたしは人に対するのに、ことばを聞いてそれで行いまで信用した。今はわたしは人に対するのに、ことばを聞いて、さらに行いまで観察する。予のことで改めたのだ）と人を認識する方法まで変えた。後に臨菑大夫となり、田常の乱に加わって、陳恒に殺されたと言われている。唐代には「齊侯」、宋代には「臨菑公」と封じられた。

#### ⑥ 子游一言偃（紀元前506～?）

姓は言、名は偃で、字は子游、または言游とも言う。春秋末呉の人と言われる。孔門十哲の一人で、子夏、子張と並び、孔子晩年の著名な弟子ある。孔子より四十五歳も若い。文学で有名で、二十代に既に武城町の長官に任じられた。「事君数斯辱矣、朋友数斯疎矣」（『論語 里仁』君にお使いしてうるさくすると（いやがられて君から）恥辱をうけることになる。友だちにもうるさくすると疎遠にされるものだ）という名言を遺した。「仁」、「礼」の根本を重視し、「君子学道則愛人、小人学道則易使也」（『論語 陽貨』君子道を学べば即ち人を愛し、小人道を学べば即ち使い易し）という孔子の理論に則って実践し、音楽による教化に力を注ぎ、孔子が武城に見えた時、「唱歌の声を聞」いて「莞爾として」笑い、満足した。後に門人を募って教育に力を入れて学問を研鑽し、有力な学派を形成した。唐代には「呉侯」、宋代には「丹陽公」と封じられた。

## ⑦ 子有一冉求 (紀元前522~?)

姓は冉、名は求、または有、冉子とも称され、魯の国の人である。孔門十哲の一人である。貧しい家庭に生まれ、孔子からは「求也芸」(『論語 雍也』)と褒められ、孔門弟子の中で政事に長けて多芸で、元も政治家向きと言われる。本人も早くから経国の意思を表している。列国周遊している内に、魯国より招かれて、孔子より先に魯に帰国した。季氏の宰(家老)になって、大いに才能を発揮した。齊国の軍隊が魯に侵入した際、友軍の左師が敗退したにもかかわらず、右軍を率いて齊軍を撃退した。季氏に褒められたら、それは恩師である孔子のお陰であると、孔子を魯国に迎えるようにと、季氏に進めたのである。しかし、実際の日常事務中で孔子と意見の食い違いが多く、孔子から厳しく非難されている。季氏の食欲横暴ぶりに加担して、利益を得ようとしているから、孔子から「我が徒に非ざるなり。小子、鼓を鳴らしてこれを攻めて可なり」(『論語 先進』)と師弟の絶縁を宣告された。これについて、冉求自分が道を嫌いではなく、力不足していると弁解したら、孔子は、そうでなく進歩しようと思わなかったからだとして反論した。孔子は子有の才能を褒めたが、彼には仁徳ありとは認めなかった。唐代には「徐侯」、宋代には「彭城公」と封じられた。

## ⑧ 冉伯牛一耕伯牛 (紀元前544~?)

姓は冉、名は耕、字は伯牛、魯の人で、孔門十哲の一人である。道德信仰の篤い道德家で有名、孔子の思想をよく体得し、日常的に実践する。魯の中都の宰(家老)も勤めた。晩年、難病に侵され、寝たきりになり、孔子が自ら見舞いに行き、窓越しに彼の手を執って、「亡之、命矣夫、斯人也有斯疾也」(『論語 雍也』)おしまいだ。運命だねえ。こんな人でもこんな病気にかかるうとは。)と嘆いた。唐代には「鄆侯」、宋代には「東平公」と封じられた。

## ⑨ 閔損一閔子騫 (紀元前536~?)

姓は閔、名は損、字子騫、魯の国の人で、孔門十哲の一人である。孔子より十五歳若い。孔門弟子の中では、徳行が顔回と比肩され、特に孝行が傑出である。幼いときに、生母に死に別れ、継母に虐待されたので、父親がその継母を追い出そうとしたら、子騫が逆に継母のために弁護して止めたというエピソードは有名である。「孝哉、閔子騫、人不問於其父母昆弟之言」(『論語 先進』)孝行だなあ、閔子騫は、その父母や兄弟をそしるようなことをだれもいわない。)と孔子も彼の孝行を誉めた。魯国の季氏は閔子騫を費邑の長官に登用しようとしたら、季氏の残虐ぶりを嫌って、不協力を宣言し、魯国を後にして齊国へ移住した。「大夫に仕へず、汗君の禄を食まず。もし我を復する者有らば、必ず汝の上に在らん」(『史記 仲尼弟子列伝』)と孔子は彼のとった行動を高く評価した。『孟子』では、顔淵、冉伯牛と並んで「小聖人」と称えられている。慎重で無口である。しかし、「夫人不言、言必ず有中」(『論語 先進』 夫の人は言わず。言えば必ず中ることあり。)と孔子にも認められた。唐代には「費侯」に封じられ、宋代には「瑯琊公」の号を贈ら

れた。

#### ⑩ 仲弓一冉雍（紀元前 522～？）

姓は冉、名は雍、字は仲弓、魯の国の人で、孔門十哲之一人である。「賤人」の家庭に生まれたにもかかわらず、立派な人格を修得でき、孔子からも「犁牛の子」と譬えられた。孔子からたいそう見込められ、「雍也、南面せしむべし」（『論語 雍也』）と天子や諸侯と同等に立派な政治家になれると高く推輓された。季氏の宰（家老）を務め、政治手腕も孔子に認められ、さらに「己の欲せざる所、人に施すことなかれ」と教えられた。後に大きな学派を形成し、儒学の発展を促した。唐代には「薛侯」、宋代には「下邳公」と封じられた。

#### ⑪ 子張一顓孫師（紀元前 503～？）

復姓？ 孫、名師、字子張、または張とも称せられる。陳の国の人で、驢馬販売業の家庭に生まれ、孔子の晩年弟子ではあるが、学業が優れて、子夏、子游と肩を並べられる。学問が熱心で、『論語』の中、子張が孔子に学問について質問したのが二十回も記録されている。才能が高く、志向も高調であるが、時々過激になるのが玉に瑕、孔子からも「師也僻」、「師也過ぎたり」（『論語 先進』）、とたしなめられ、「過ぎたるは猶お及ばざるがごとし」（『論語 先進』）と悟られる。博愛で、度量の広く、幅広い交友をし、「君子尊賢而容衆、嘉善而矜不能」（『論語 子張』君子は優れた人を尊びながら一般の人々をも包容し、善い人をほめながら、だめな人にも同情する）と主張した。孔子死後、陳国に移住し、学校を開いて、後生の養成と学問に専念する。尊賢、博愛、兼容等を主張し、儒家八家の冠たる「子張之儒」を形成する。唐代には「陳伯」と尊ばれ、宋代には「宛丘侯」に封じられた。

#### ⑫ 子遲一樊須（紀元前 515～？）

姓は樊、名は須、字子遲、魯の国の人、また、齊の国の人という説もある。孔子の弟子で、好學で広く質問し、納得するまで質問を止めない。『論語』には、「仁」について三回、「知」について二回、「孝」や「崇徳」等については一回、質問をし、「稼、圃」まで、教えを乞うたと記録されている。『論語 顔淵』には、彼が「仁」について詰問したことの記述がある。それによると、孔子は「人を愛する」と答えた。そして、「知」について質問すると、孔子は「人を知る」と答えた。そこまで聞いても未だ分からないので、さらに追求したら、孔子は「拳直錯諸枉、能使枉者直」（正しい人々を引き立てて、邪悪の人の上に位づけたなら、邪悪の人々を正しくさせることができる）答えた。さらに、「稼、圃」等植物の植え方まで学びたいから、孔子から「小人なるかな」（『論語 子路』）と酷評された。勇武精神旺盛で、季氏に仕えた。唐代には「樊伯」、宋代には「益都侯」と封じられた。

⑬ 子思一原憲 (紀元前515~?)

姓は原、名は憲、字は子思、又は原思、仲憲で、魯の国の人、孔子の弟子である。清廉な人で、清貧な生活に甘んじることで有名である。孔子が司寇となったとき、その事務取扱をする執事を務めた、孔子家の家宰 (家老) になり、年俸は粟九百斛となっているが、固辞して受け取らなかった。孔子は「毋、以與璽隣里郷党乎」(『論語 雍也』いやいや、それをお前の隣近所にやればいい) と悟ったのである。そして、修身の中で、「克、伐、怨、欲」等の抑制を主張し、以て「仁」とする。(『論語 憲問』) 孔子の教えを守って、生涯出仕せず、孔子死後、直ちに草沢に隠れ住んだところ、衛の国の高官をしていた同じ弟子の子貢が馬車を連ねて迎えに行ったら固辞されたので、大病を患っているのではないかと疑われた。本人は答えて曰く。「財無き者は之を貧と謂い、道を学びて行なう能はざる者は之を病と謂う。憲の若きは貧なり、病に非ず。」それを聞いて、子貢が恥ずかしくて帰った。唐代には「原伯」と、宋代には「任城侯」と封じられた。

⑭ 子華一公西華 (紀元前509~?)

復姓公西、名は赤、字は子華、魯の国の人、孔子の弟子である。孔子の門下に入り、礼儀作法の修練を志した。「非日能也、願学焉、宗廟之事、如会同、端章甫、願為小相焉、」(『論語 先進』) できるというわけではありません。学びたいのです。宗廟のお勤めや、諸侯の会合のとき、端の服をきて章甫の冠をつけ、いささかの助け役になりたいものです。) 礼儀作法や儀式の執り行いに長けて、人との応対が完璧するほど上手い。孔子は弟子たちに「賓客接待の礼は子華に学べ」と勧めたぐらいである。孔子から派遣され、斉の国へ遊説に行った。肥えた馬に乗り、絹の服に拘るなど、裕福な生活をしていた。孔子が逝去後、葬儀委員会の長になり、葬式の演出を設計した。唐代には「邵伯」、宋代には「鉅野侯」と封じられた。

⑮ 子牛一司馬牛 (紀元前~?)

復姓司馬、名は耕、字子牛、宋の国の人、孔子の弟子である。「多言而躁」(『史記・仲尼弟子列伝』) と言われ、口数が多くて騒々しい人物である。故に、孔子に「仁」について質問したところ、「仁者、其言也訥」(『論語 顔淵』) 仁の人はそのことばがひかえめだと教えられた。つまり「言いたいことも言わずに、じっと耐え忍ぶのが仁である」と諭されたのである。そして、心配性で、憂鬱な面もある。君子について孔子に質問をしたら、「君子不憂不惧」(同前、君子は心配せず恐れもせず) と孔子は子牛の性格に応じて答えをした。一人で兄弟の無いことを嘆いたら、兄弟の子夏は孔子の言葉を引用して「四海の内、皆兄弟なり」(『論語 顔淵』) と言って慰めた話しも有名である。孔子を殺そうとした司馬恒魋の弟であるという説もあるが、別人の誤りである。唐代には「向伯」、宋代には「楚丘侯」と封じられた。

## ⑩ 子輿一曾参（紀元前～？）

姓は曾、名は参、字子輿で、魯の武城の人、孔子の弟子である。先祖は貴族で、父の代になると平民に成り下がり、襤褸を着て野良仕事をしたと言われる。父の曾点も孔子から教えを受けた。内気で、慎重な性格は時には間抜けに見えるので、孔子からは「参也魯（のろま）」（『論語 先進』）と評された。孔子の「仁」について深く理解し、「夫子之道忠恕而已」（『論語 里仁』）夫子の道、忠恕のみ」と道破している。「孝」の道に精通しているので、孔子が彼に孝の道を説いた、その話しを纏めて『孝経』に仕上げたと言われている。修身、内省を重視し、「吾れ日に三たび吾が身を省みる」（『論語 学而』）という方法を提唱し、孔子に誉められた。「君子思不出其位」（君子はその職分以上のことは考えない。）と分際を弁え、士たる人間は「仁の道」を弘めることを「己れの任」とし、「任重くして、道遠し」、そのために「死して後已む」（『論語 泰伯』）べきであるという主張は、中国知識人の精神となっている。後に学校を開き、学問の伝授をして、孔子の道を伝えた第一人者であると言われる。儒学教典の一つ、『大学』も曾参とその弟子の手によるものであると言う説もある。後人が彼の言説を纏めた『曾子全書』十二編ある。唐の高宗からは「太子少保」というおくり名、叡宗からは「太子太保」と追加され、玄宗からは「郕伯」と封じられた。宋代には「瑕丘侯」、明代には、「宗侯」等と封じられた。

## ⑪ 子有一有若（紀元前～？）

姓は有、名は若、字は子有で、魯の国の人、孔子の晩年の弟子で、孔子より三十三歳年下ある。堂々とした体つきは孔子と似ているが、発言も孔子にそっくりである。勇敢で力も強い。孔子の思想を深く理解し、「孝」と「礼」を特に重視した。「孝行、悌順」を「仁の本」にして、「上を犯し、乱を作る」ことへの防止策にしようとして力説している。「礼之用和為貴」（『論語 学而』）（礼の用は和を貴しと為す）ことを提唱し、礼を以て人間関係を調整すべきであると主張している。官民の関係については民を大切に、役人は常に大衆の立場を尊重すべきで、「百姓足、君孰與不足、百姓不足、君孰與足」（『論語 顔淵』）大衆が十分だということに、殿さまはだれと一緒に足りないのでしょうか。大衆が足りないということに、殿さまはだれといっしょで十分なのでしょう。）と言った。孔子のことを誇りに思っただけでこう語った。「出於其類、拔之其萃、自生民以來、未有盛於孔子」（『孟子 公孫丑章句上』）聖人とてもやはり同じ人間ではあるが、その同類から抜きんで特別にすぐれている方なのだ。さらにそれら聖人のあつまりのなかで、また特に傑出しているのがわが孔先生である。この世に人類ははじまって以来、まだ孔先生より徳の盛んな偉大な聖人はないのである。）孔子死後、他の弟子たちからは、孔子に対したように子有を師として仰ごうという提案が出されたが、曾参らの反対で実現できなかった。なお、後世の研究では『論語』の中で、弟子に「子」を付けて呼ばれたのは曾子とこの有若だけであることが分かった。『論語』も曾参や有若及びその弟子たちの手によって編纂されたと言われる。唐代には「卞伯」、宋代には「平陰侯」と封じられた。

注；

- ①馮 友蘭 『中国哲学史 上』 中華書局 1961年4月 P70-71
- ②恒 寛 『塩鉄論 刺復』 中華書局 1984年 P77
- ③顔 之推 『顔氏家訓』 上海古籍出版社 1980年 P320

参考文献；

- 『論語』 金谷 治 訳注 岩波文庫
- 『孟子』 小林 勝人 訳注 岩波文庫
- 『史記』 司馬遷 野口 定男 訳 平凡社 中国古典文学大系
- 『史記』 司馬遷 水沢 忠利 訳 明治書院 新訳漢文大系

